

かし行遠をは人の  
ら急くき負重の  
ずぐが道おき一  
可如をて荷生

い認め、遣す……袖筆を呼べ」とあつて御船筆を召され、其通り認めさせ、政吉侯自身で花押を遊ばして、外記に聞かされた、外記は當日の御日記筆を呼んで殿中の御日記に右の水筆を止めさせた。月番老臣・天童筑前の前へ来て、外「何ぞ御勘判を願ひ、どう御座います」と、惣て御勘判をして貰つた。随分手堅い

今や我が四顧を圍むものは曰く邊主  
閑き影にばかり出されたる疑ぞ感ふ  
のフアレトムのみ、ア、鰐を擲つて

心せざるを得ず流石香氣者揃ひの▲西國  
人等も消えたストレープの傍に文字の上子共に概  
して健全に養はせらるゝと信ふに依りて  
▲波斯の國が自國に對するに寄  
つて解束單且つ明瞭に假名遣ひの  
▲波斯の國が自國に對するに寄  
つて解束單且つ明瞭に假名遣ひの  
▲波斯の國が自國に對するに寄  
つて解束單且つ明瞭に假名遣ひの

一人にんにて何首なんしゅにても宜敷よろしく、

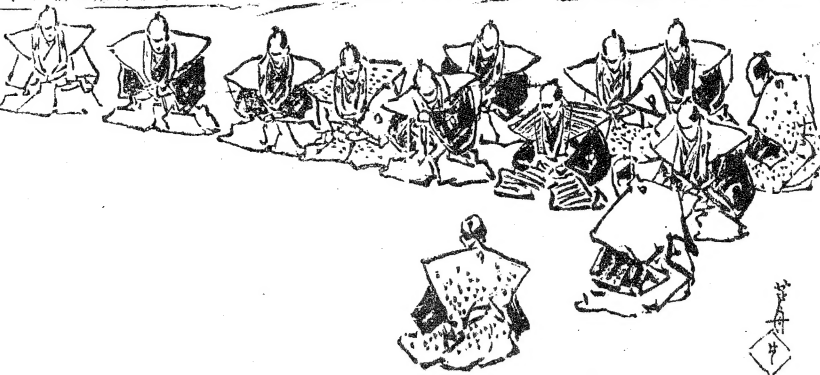
紙の庄

事に付て何とぞか申上  
 るのであらうと思つ  
 居るであらう、御前近  
 く進み、外へ忍びがら  
 川庄八召掛の役某  
 に仰付下さるやう願  
 へ奉ります、彼れが

第五十九回

演  
へう  
東政をば

記の浮薄なる心  
 人だ者もある位  
 侯は此言葉を開  
 政<sup>せい</sup>クム其方<sup>かた</sup>  
 して



夏角天狗りたるが當とは云へ所  
 路自稱の木の葉合を標榜して大々  
 の大天狗中天狗小天狗に至るの  
 の面々が自分で天狗が巨介の程  
 を廣くもあらぬ一堂に突合すと云  
 至つては近頃以て危殆千萬軒の水  
 折れては賑かに術なかるべし若し  
 其息息と羽風とが合して南山嵐の

天紅に近き前後の暇天を望まん  
 速記速記 十日夜病床にて稿す

コツパ會句錄

航許可談判を露と繼續する可否を審議とを見合はして居るばかり、深慮何と云ふ一語を召問  
 ▲土國 或保庫のタ海峽通過を云ふと云ふ者は御座いません只顔と顔一つの御顔がござり  
 ▲政府の默認を得獨逸の私人清宮軍、無く白らけ渡りました、政宗侯は此爲に實に容易ならぬ事と云ふが愈に手堅くして御墨付を頂いたのは、  
 味方に此等の諸外國の非難を獨否認す体を見て少しく顔の色を變へて「政」彼々召捕りました曉には如何なる恩賞も此食祿を貰うと云ふ下問では御  
 ▲英艦 オライオン號發電室に石油を漏らへて立戻りし方々は恩賞の沙を下し置かれましたに如何なる恩賞も此食祿を貰うと云ふ下問では御  
 爆発し火種の爲士卒廿名重傷を負ふと云ふに及ぶで有らう、其方等は恩賞風情となすを申す奴やと政宗侯始皆思  
 ▲首相 フ氏下院にモレー卿上院にに誘はれたるか、何故に答を致さぬか、何か仔細のある事やと思召し  
 多大なる印度皇冠式費の必要を説明す、前甲斐無き奴も構うて居る、ヨタから「政」ラム庄八を召捕り着見よく  
 ▲駐土 獨逸大使の申込に依り土國にシ、北條九代に衣權最明寺時相の例立歸つた際には千石の加増を申付るで  
 ハミルナの伊人放逐命令を撤去せしにに似ひ圓頭黒衣の姿に成り、雲水行脚あるう外「有難き仕合せに存じます、庄八がまだ舊曆外記と和田但馬の門  
 ▲西條 兩國間に於ける事務問題のなを、後左の在所を認め求めの速返りにて國就きましては千石加増の次第只今御墨  
 下問頭領を進行中と云ふに、此處に處する所を認むと云ふは實に召捕り上りたに存じます、政宗侯の水石ではありませぬ、但馬の娘など

**ソニタクホテル**  
電話七三九

城長谷川町一丁目皆川の隣  
 一軒家  
 御用の方は皆川へ御來談あれ  
**解雇廣告**  
 右の者今般都合に依り解  
 雇致候間自今當店に何等  
 關係無之此段廣告候也  
 四十四年二月十五日  
 京城御成町  
 協同組支店

相違ないけれ共、出来て了つた事は、  
更致方がない、不義は不義として未  
の良夫、遁れもない武士の胤を宿した  
云のは悦ばしい譯である、若し此  
政宗候の御怒り強ければ、若し此事  
聞に達し娘の腹に宿りし子をば聞か  
問へ道と云やうな事があつては一  
事、是非に及ばぬ密に娘を勘當して  
たが宜かろう」と夫婦相識を致しす

母親も大に驚きましたが、  
但、良夫に告げると但馬の申すに  
「實の所乃公の所存は、娘は庄八  
娶はしたいと内々彼れに話を致した  
もある、彼れも異存なきやうである  
ら、娘に云て聞かした事もあつた、  
は夫婦にして遣らうと心組ん  
居た」内に、蕨庭を討つやうな珍  
出奔、併し親の目録を感で勝手に  
りを結ぶと云のは、何處まで不義

假寐の契りを結びました。眞の若氣  
過失でございませうが、緯は異なると  
膝が程もなく庄八の種子を宿しま  
した、けれども庄八は勿論當人さへ露  
らすに居た、其中に彼の大手下馬先  
津度周防を討つて主水の牢に入られ  
破産して立ち退く、其の跡でな睦  
姫嬬に事に心付く、隠すに隠され  
て圖書は非なく先事と現況とを

**眼科**

京誠明治町三丁目日本通り東洋拓殖會社南側  
日曜及祭日午後二時至六時  
江頭眼科醫院

電話一千四百四番

石田耳鼻喉科專門  
前京都醫科大學耳鼻咽喉科教授齒長  
前京都立瀨病院耳鼻咽喉科部長  
京城本町三丁目  
診療時間午前自九時至十二時  
午後自二時至六時  
石田耳鼻喉科專門  
喉氣管病醫院  
電話一七〇九番  
誠

京城中都琵琶町(水標橋通)  
電話一千八百七二番

京  
城  
製  
粉  
所

內科 外科 小兒科 淋病 梅毒

京 城 警 町 三 丁 目

高 井 醫 院

小兒科專任 高坂醫學士 植利 貞治  
長陸軍軍醫正 高井

京城北米倉町 婦人病院(向側)

注連内齒科醫院

院長 從七位 注連内 石

電話八一二番

[illegible]

文學士成田忠良先生編（新版發賣）  
朝鮮語對譯國語會話入門







特別廣告  
上中の一昨夕歸宅  
十二月十七日  
高橋章之助

恩を仇なる人非人  
高橋章之助

京城市民と圖書館  
十二月二十五日

新年畫附錄  
十二月二十五日

御寄贈に候玉  
十二月二十五日

南門校に猩紅熱  
十二月二十五日

仲居評判記(七)  
十二月二十五日

土佐朝鮮義妓  
十二月二十五日

支店設置御披露  
十二月二十五日

小林民次郎支店  
十二月二十五日

海陸物産卸專業  
十二月二十五日

毛荒  
十二月二十五日

増戸銃砲店  
十二月二十五日

野邑雄吉  
十二月二十五日

母野邑トミ子  
十二月二十五日

恩を仇なる人非人  
高橋章之助

京城市民と圖書館  
十二月二十五日

新年畫附錄  
十二月二十五日

御寄贈に候玉  
十二月二十五日

南門校に猩紅熱  
十二月二十五日

仲居評判記(七)  
十二月二十五日

土佐朝鮮義妓  
十二月二十五日

支店設置御披露  
十二月二十五日

小林民次郎支店  
十二月二十五日

海陸物産卸專業  
十二月二十五日

毛荒  
十二月二十五日

増戸銃砲店  
十二月二十五日

野邑雄吉  
十二月二十五日

母野邑トミ子  
十二月二十五日

恩を仇なる人非人  
高橋章之助

京城市民と圖書館  
十二月二十五日

新年畫附錄  
十二月二十五日

御寄贈に候玉  
十二月二十五日

南門校に猩紅熱  
十二月二十五日

仲居評判記(七)  
十二月二十五日

土佐朝鮮義妓  
十二月二十五日

支店設置御披露  
十二月二十五日

小林民次郎支店  
十二月二十五日

海陸物産卸專業  
十二月二十五日

毛荒  
十二月二十五日

増戸銃砲店  
十二月二十五日

野邑雄吉  
十二月二十五日

母野邑トミ子  
十二月二十五日

恩を仇なる人非人  
高橋章之助

京城市民と圖書館  
十二月二十五日

新年畫附錄  
十二月二十五日

御寄贈に候玉  
十二月二十五日

南門校に猩紅熱  
十二月二十五日

仲居評判記(七)  
十二月二十五日

土佐朝鮮義妓  
十二月二十五日

支店設置御披露  
十二月二十五日

小林民次郎支店  
十二月二十五日

海陸物産卸專業  
十二月二十五日

毛荒  
十二月二十五日

増戸銃砲店  
十二月二十五日

野邑雄吉  
十二月二十五日

母野邑トミ子  
十二月二十五日

恩を仇なる人非人  
高橋章之助

京城市民と圖書館  
十二月二十五日

新年畫附錄  
十二月二十五日

御寄贈に候玉  
十二月二十五日

南門校に猩紅熱  
十二月二十五日

仲居評判記(七)  
十二月二十五日

土佐朝鮮義妓  
十二月二十五日

支店設置御披露  
十二月二十五日

小林民次郎支店  
十二月二十五日

海陸物産卸專業  
十二月二十五日

毛荒  
十二月二十五日

増戸銃砲店  
十二月二十五日

野邑雄吉  
十二月二十五日

母野邑トミ子  
十二月二十五日

恩を仇なる人非人  
高橋章之助

京城市民と圖書館  
十二月二十五日

新年畫附錄  
十二月二十五日

御寄贈に候玉  
十二月二十五日

南門校に猩紅熱  
十二月二十五日

仲居評判記(七)  
十二月二十五日

土佐朝鮮義妓  
十二月二十五日

支店設置御披露  
十二月二十五日

小林民次郎支店  
十二月二十五日

海陸物産卸專業  
十二月二十五日

毛荒  
十二月二十五日

増戸銃砲店  
十二月二十五日

野邑雄吉  
十二月二十五日

母野邑トミ子  
十二月二十五日

恩を仇なる人非人  
高橋章之助

京城市民と圖書館  
十二月二十五日

新年畫附錄  
十二月二十五日

御寄贈に候玉  
十二月二十五日

南門校に猩紅熱  
十二月二十五日

仲居評判記(七)  
十二月二十五日

土佐朝鮮義妓  
十二月二十五日

支店設置御披露  
十二月二十五日

小林民次郎支店  
十二月二十五日

海陸物産卸專業  
十二月二十五日

毛荒  
十二月二十五日

増戸銃砲店  
十二月二十五日

野邑雄吉  
十二月二十五日

母野邑トミ子  
十二月二十五日

恩を仇なる人非人  
高橋章之助

京城市民と圖書館  
十二月二十五日

新年畫附錄  
十二月二十五日

御寄贈に候玉  
十二月二十五日

南門校に猩紅熱  
十二月二十五日

仲居評判記(七)  
十二月二十五日

土佐朝鮮義妓  
十二月二十五日

支店設置御披露  
十二月二十五日

小林民次郎支店  
十二月二十五日

海陸物産卸專業  
十二月二十五日

毛荒  
十二月二十五日

増戸銃砲店  
十二月二十五日

野邑雄吉  
十二月二十五日

母野邑トミ子  
十二月二十五日



